

令和 8 年度 竹田教育事務所 第 1 回学校訪問まとめ

1. 訪問の目的・概要

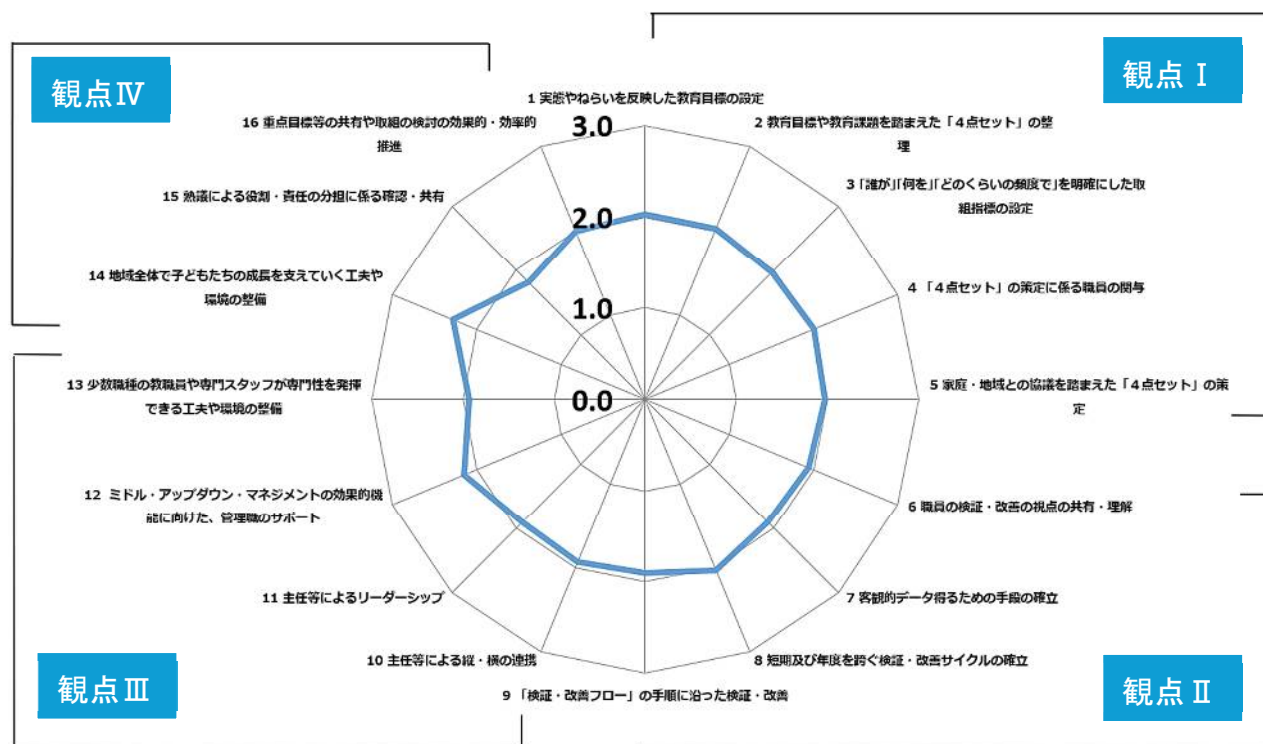
【訪問のねらい】

「芯の通った学校組織」を基盤として教育水準の向上を目指し、学校マネジメントの質の向上やカリキュラム・マネジメントの充実をはじめ、授業改善、体力向上、いじめ・不登校対策など、学校が抱える喫緊の課題に対する協議を行い、その解決のために必要な指導および支援を行う。

《実施期間：令和 8 年 5 月 26 日(火) ～ 7 月 3 日(金)》

2. 学校マネジメント4つの観点における状況について

【マネジメント評価における管内平均】



【観点 I】学校の教育目標、重点目標等の設定・共有

- ・管理職のリーダーシップのもと、主任等を中心に全教職員が「4点セット整理票」の策定に関わり共通理解されている。また、PTA や学校運営協議会を通じて家庭・地域との共有・協議が進んでいる。
- ・自校の重点目標達成に向けた指標や取組の設定になっているか、横のつながりの整合性の検討が必要な学校も見受けられる。
- ・学校ホームページによる情報発信・周知に学校間での差が見られるため、積極的な発信が求められる。

【観点Ⅱ】短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施

- ・年度跨ぎの検証を「4点セット整理票」に反映し、改善策を次年度計画へ位置づける取組が定着している。月1回のPT会議や中間アンケート等を活用した短期的なPDCAサイクルの確立が進んでいる。
- ・取組状況を把握するための具体的な視点や、収集した客観的データを校内研究・指導改善へどう結びつけるかについて、更なる工夫が求められる。

【観点Ⅲ】主任等が効果的に機能する学校運営体制

- ・ミドルリーダーや主任層がPT（プロジェクトチーム）や各種会議を運営し、管理職のサポートのもと組織的マネジメントが機能している。経験年数の浅い教職員が増加している中、チーム制や小中連携による支援が進められている。
- ・初任主任層へのサポート体制の構築や、ミドルリーダーがよりリーダーシップを発揮できる運営体制づくりが課題である学校も見受けられた。

【観点Ⅳ】学校・家庭・地域による目標の共有・協働

- ・学校運営協議会（CS）において推進部会を活用した協議が進んでおり、クラブ活動や学習支援など地域が主体となった参画が増加している。
- ・学校、家庭、地域の三者のより主体的な関わりや当事者意識を高める工夫が求められる。また、委員の世代交代や人員確保など、持続可能な組織運営の維持が重要である。

3. 働き方改革の推進について

- ・年休取得促進、ICT活用によるデータ整理効率化・ペーパーレス化、管理職による「1改善運動」の進捗管理強化などを実施している。
- ・「業務量管理・健康確保措置実施計画」の推進、チーム担任制の導入、CSを活用した登下校見守りやゲストティーチャー招聘、部活動の地域展開等による教員の負担軽減が進んでいる。
- ・一部の教職員における時間外勤務の固定化に対し、継続的な声かけや対応が必要である。

4. 授業改善の徹底について

- ・授業規律の徹底やユニバーサルデザイン（UD）視点の導入、互見授業や共通の「振り返り」設定等の取組が見られ、組織的底上げが進んでいる。
- ・学力向上プランや校内研究との連動、小中乗り入れ授業、ICTを活用した主体的・協働的な学びの推進が図られている。
- ・「授業シート」におけるねらいと評価規準の整合性の確保、個別配慮・支援が必要な児童生徒への記述や実践共有の強化が期待される。
- ・中学校学力向上対策（3つの提言）については、生徒会や生徒自身が中心となった学習目標の設定、授業評価の実施とフィードバックなど、生徒と共に創る授業づくりが展開されている。取組の成果を教科部会等で発信・共有し、計画的・継続的な授業改善へとつなげることが期待される。

5. 特別支援教育の視点からの授業改善（「個別の指導計画」活用状況について）

- ・全ての学校で学期に1回以上の定期的な見直しを実施している。個別の指導計画推進教員の同行訪問や授業参観を通じた児童生徒の状況把握と個別訪問への活用が進んでいる。
- ・個別の指導計画推進教員や各種資料を積極的に活用し、一人ひとりの状況に応じた指導・支援の最適化を図ることが求められる。

6. 体力向上・健康課題への対応について

【体力向上】

- ・全ての学校で「1校1実践」の組織的推進が進められている。多くの学校での体力運動能力調査（年2回以上）が実施されている。年1回実施の学校については、課題項目に絞った複数回実施などの工夫が求められる。

【フッ化物洗口・むし歯対策】

- ・全ての学校でフッ化物洗口を実施している。今後も保護者への治療勧奨や啓発が求められる。
- ・フッ化物洗口や歯磨き指導などの取組の継続が必要である。

7. いじめ・不登校対策等の推進

- ・「人間関係づくりプログラム」を全ての学校で計画的・継続的に実施している。スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）等との連携による組織的対応が推進されている。小中連携や縦割り班での実施も見られる。
- ・中学校における不登校出現率が高水準にある。教育支援ルームや教育支援センター等の専門機関との密接な連携による継続的な支援が望まれる。